

# 雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

平成5年10月15日

気 象 庁

## 雲仙岳の火山活動に関する火山噴火予知連絡会の統一見解

雲仙岳では、第11溶岩ドームの成長、崩落が続いており、6月下旬には千本木方向に大きな火砕流が流下し、6月、7月には国道57号を越えるなど大きな崩落が続いた。第11溶岩ドームはその後成長を続け、長さ約800 m、幅約400 mと過去の溶岩ドームの中で最大規模に成長した。

本年2月から再び増加した溶岩噴出量は、1日10～30万 $\text{m}^3$ 程度の間で増減を繰り返している。溶岩ドームでは断続的に群発地震が発生し、山頂部では引き続き膨脹が続いている。また、地磁気の消磁傾向も続いている。島原半島内の水準測量によれば、従来に比べやや大きな沈降が観測されたが、2月から始まった噴出量の増加に対応する変化と思われる。

第11溶岩ドームについては、過去の溶岩ドームと比べ溶岩の性質に特に変わりはなく、載っている斜面の傾斜も同じであり、大きく成長したことから大きな火砕流の危険性があると考えられる。今後も溶岩ドームの成長及び火砕流が続くと考えられ、火山活動に厳重な警戒が必要である。

なお、降雨による土石流にも引き続き警戒が必要である。